



就任のごあいさつ

理事長 遠藤 仁

このたび、医療法人曙会理事長、和歌浦中央病院院長を拝命することとなりました。

医療法人曙会は昭和30年に私の祖父である遠藤香苗が和歌浦診療所を開設し、昭和31年に当病院開設に至りました。70年にわたりこの地で医療、介護、福祉に携わってきました。私が7歳の時に私の父、遠藤篤が他界したため、理事長、院長を叔父である山本好信前理事長が引き継がれ、長きにわたり当法人のために尽力いただきました。長年のご苦労に心より感謝申し上げます。退任後も会長職として主に和歌川苑施設長として残られます。引き続きご指導を承りたく存じます。そして私がその後任を務めさせていただきますが、日本が直面する課題である超高齢化社会、少子化、医療職不足など様々な難題に負けず、先達関係者、また曙会に携わるすべてのスタッフの思いを引き継いで、さらなる地域医療への貢献、曙会の発展に全力で取り組んでいく所存であります。

私は和歌山県海南市で生まれ育ち、高校まで和歌山で過ごしました。大学は関東の医学部に進み、水泳部に所属。日々スポーツに打ち込んできました。卒業後は子供のころからの夢であった外科医を志し、二番過酷といわれる心臓血管外科を専攻しました。手先は器用であった事と人生で一度は限界まで自分の力を試してみたいと思ったからです。心臓血管外科時代は病院に寝泊まりし、ほぼ休みなく手術室と患者さんのそばで過ごしました。この時代は私にとってかけがえのない時代です。そしてこの過酷な大学時代の仕事を思えば、多少のつらい状況でも乗り越えられるようになりました。また人生の師ともいえる恩師とも出会う事ができました。医師として指導者としてそして人として魅力のある恩師に出会えた事はかけがえのない財産だと思っています。

その後和歌山に帰り、平成30年より当院で診療に携わっております。今年で46歳を迎え、妻と3人の子供と過ごす時間が私の癒しです。医師としては21年目となりますが、まだまだ学ぶことはたくさんあります。当院で働くようになってからは地域医療に専念し、非常にやりがいを感じています。日々の診療を通じてこれからの高齢化社会において、地域に必要とされているのは医療、介護、福祉に横断する力を持っている当法人のような存在だと実感しております。

当病院は近年外来患者数、入院患者数、救急車の受け入れ数の大幅な増加、そして和歌山県民間病院の中でも医大、日赤病院救命救急センターからの即日受け入れ（下り搬送）も非常に多く受け入れてきております。そして介護老人保健施設和歌川苑、サービス付き高齢者住宅あけぼの、訪問看護「コスモス」、訪問診療、居宅介護支援たんぼ（ケアマネージャー）との連携により退院後のフォロー、介護、福祉にも力を入れております。

当院の理念には、「地域の皆様から親しまれ、信頼され、選んでいただける法人を目指す」とあります。この理念を達成するためには私一人の力では実現できません。同じ志を持つスタッフがいるからこそ達成できると信じています。同じ理念を胸にスタッフとともに歩んでいきたいと思えます。これからの新体制医療法人曙会をどうぞよろしくお願い申し上げます。

「どんなふうに 乳がん検診を受けたらいいですか？」



これは患者さんからよくいただく質問です。乳がんが女性の9人に1人がかかる病気となった今、“正しく乳がん検診を受けることで自分の身を守ろう”と考える女性が増えています。乳がんは、早期に発見して治療を開始すれば、治療成功率が高く、手術で乳房を残せる例もあるため定期的な検診は非常に重要です。

さて、上記の質問の正解は、こんな感じです。

年 齢	検 診 内 容	BRCA遺伝子異常がある (もしくは、その可能性のある) 方
40歳以上	1～2年ごとのマンモグラフィー検査 +1年ごとの超音波検査	個別検診 (乳腺外科にご相談下さい)
30～39歳	数年ごとのマンモグラフィー検査 +1年～数年ごとの超音波検査	
29歳以下	1～数年ごとの超音波検査	

40歳以上の女性は、自治体主導の乳がん検診(2年ごとのマンモグラフィー検査)を受けることができます。罹患のピークである40代後半～65歳くらいまでに標準を合わせたものです。

「2年も間を空けて大丈夫なんですか？」これもよくいただく質問です。答えは、「たいていは大丈夫」です。これは、大半の乳がんは悪性度が低く、2年間経っても命に関わらないレベルであることが多い、というデータに基づいていますが、この“たいてい”に当てはまらない中～高悪性度の乳がんがあるのも事実です。よって、自分の病気を少しでも早く発見したいと考える方は、超音波検査も追加し、最高で年に1度まで頻度を上げるのも良いでしょう。

39歳以下は、自治体主導の検診対象とはなっておらず、症状を自覚した時に医療機関を受診することを推奨されていますが、自己触診などでは分からないことも多いです。よって、定期的な検診をお勧めします。

29歳以下は罹患率が少ないため、定期検診レベルで行う必要はないとされています。また、乳腺の濃度が高く、病変があってもマンモグラフィー検査では見つけられない可能性が高いため、行うのであれば超音波が望ましいです。よって、ご心配な方は、数年毎に超音波検査を受けると良いでしょう。



＜当院で行える乳がん検診＞

- ・和歌山市の乳がん検診:2年毎のマンモグラフィー検査
- ・人間ドックなどの乳がん検診:視触診、マンモグラフィー検査、超音波検査



がんと診断されたときから 切れ目のないケアの提供を目指して

当院では、がんと診断された時から、患者さんがどこで療養していても、切れ目のない適切なケアを受けていただけることを目指し、がん看護専門看護師が活動しています。

がん患者さんは、診断時から身体的なつらさだけでなく、気持ちや社会的な面でも、様々な困難に直面することがあります。併存疾患を持つ患者さんや、高齢者、若年患者さんなど特有の課題も多く、多様な背景を持つ患者さんやご家族のニーズに応える必要があります。

がん看護専門看護師は、がん患者さんのからだの辛さや気持ちの辛さを理解し、患者さんやその家族に対して、QOL(生活の質)の視点に立った水準の高い看護を提供し、病気のどの時期にあってもその人らしく日常生活が続けられるよう支援します。

がん看護専門看護師の役割

- 病気や治療の副作用などの症状緩和に関するケアの提供
(疼痛・吐気・嘔吐・呼吸困難・倦怠感・せん妄など)
- ご家族へのサポートをおこなう
- がん患者さんの退院指導や療養環境に関する情報提供
- 告知の問題・治療の中止や選択の問題などの相談対応・調整
- 患者さんにご家族の意見が違ってどうしたらよいか悩んでいる際の相談対応・調整
- 患者さんの心理的苦痛に対する直接ケアに対する相談対応
- 治療と仕事の両立に関する相談対応
- 患者・家族に対するケアや対応について、医療スタッフからの相談を受け共に検討
- 地域の訪問看護師の方と一緒に利用者の元へ訪問し、処置やケアの方法を共に検討
- がん看護に関する専門知識及び技術の向上・開発のために研究・研究支援を行う

地域の皆様の日常生活を支えるお手伝いをさせていただきます。お悩みがあれば「専門看護師にがん相談を希望する」と、主治医または外来看護師・入院病棟看護師にお声かけください。

がん看護専門看護師:杉谷 園

災害対策訓練を実施しました

令和6年12月17日(火)、大規模地震発生を想定した災害対策訓練を実施しました。昨年1月1日に能登半島地震が発生し、紀伊半島でも南海トラフ地震が危惧されることから、大規模な地震が起きた場合を想定して、当病院の災害対策マニュアルに基づき、訓練を行いました。



本部立ち上げ



和歌山県の津波ハザードマップで、津波が発生しても浸水しない想定である建物3階に災害対策本部を立ち上げ、各部署から被災状況を報告する内容で訓練を実施しました。

各部署より報告



報告内容一覽

[illegible]

当病院では、月1回の災害対策委員会開催や、医薬品・医療材料・飲料水・食料・自家発電機用燃料等の備蓄など、万が一の災害発生に備えています。先日、南海トラフ地震が30年以内に発生する確率が7割から8割に見直しされたとの報道もあり、津波が発生すれば更に大きな損害も想定されることから、今後も定期的に訓練を実施して災害に備えたいと思います。

外来診療担当医師案内

令和7年4月現在

区 分		月	火	水	木	金	土
内 科	午前一診(9:00~)	※西 口 毅	※山本 秀之	※武内真知子	※太田 明廣	※濱西 徹	太田/医大 (第2・4)(第1・3・5)
	午前二診(9:00~)	※遠 藤 仁	※井畑 淳子	※小川 洋司	※川口 素世	※山本 好信	
	夜間診察(17:00~)	太田 明廣	山本 直之	濱西 徹	西 口 毅	遠 藤 仁	
糖尿病専門外来	午前診察(9:00~)		※井畑 淳子	※濱西 徹		※濱西 徹	
血 管 外 科	午前診察(10:00~)				遠 藤 仁		
	午後診察(13:00~)			手術日			
外 科	午前診察(9:00~)	★山本 直之					
整 形 外 科	午前診察(9:00~)	山本 剛史	下 薗 英史	山本 剛史	※医 大	山本 剛史	山本/西 (第1・3・5)(第2・4)
	夜間診察(17:00~)		山本 剛史				
泌 尿 器 科	午前診察(9:00~)		吉田 利彦	吉田 利彦	吉田 利彦	吉田 利彦	
眼 科	午前診察(9:00~)	二出川 裕香	二出川 裕香	二出川 裕香	住岡 孝吉	二出川 裕香	雑賀 司珠也 田中 才一
	午後診察(14:00~)		■ 住岡 孝吉 岩西 宏樹		手 術 日	安田 慎吾 ^{注①} 二出川 裕香 ^{注②}	
乳 腺 外 科	午前診察(9:30~)	※西口 春香	※西口 春香				
	午後診察(13:30~)		※尾浦 正二				
リンパ浮腫外来	午前診察(9:30~)					※西口 春香	
皮 膚 科	午前診察(9:00~) (受付は11:00まで)	辻岡 馨 (受付 11:30まで)	医 大		神人 正寿		医 大 (第2・4)
血 液 内 科	午前診察(9:00~)					※医 大	
脳神経内科	午前診察(9:00~)		※医 大				
	午後診察(13:00~)					※医 大	
検 査	胃(内視鏡)	○	○	○	○	○	
	大腸(内視鏡)		○		○		
	腹部エコー	○	○	○	○	○	
	心エコー	○	○		○		

「※」印は基本的に予約制のため、予約優先となります。

「★」印の診療時間は上記のようになっておりますが随時診療可能ですのでお気軽にご相談ください。

眼科火曜日 午後診療は黄斑外来。「■」印の診療は第1・2・4・5住岡医師、第3岩西医師。

「注①」印は黄斑外来。「注②」印はコンタクトレンズ外来、第3のみ義眼外来。



小児科診療受付時間

担当医師/吉益 哲【日本小児科学会専門医】

診 療 受 付 時 間	月	火	水	木	金	土
8:30~11:30	○	○	○	○	○	○
15:00~16:00・予防接種(要予約)	○	○		○	○	
16:30~18:30	○	○		○	○	

医療法人 曙 会 和歌浦中央病院

〒641-0054 和歌山市塩屋6丁目2-70 TEL.073-444-1600

メールアドレス jimukyoku@wachuohp.or.jp

ホームページ

和歌浦中央病院

検索

医療法人 曙会 施設一覧

医療法人 曙会 和歌浦中央病院



〒641-0054
和歌山市塩屋6丁目2番70号
Tel:073-444-1600
Fax:073-441-3101
Mail:jimukyoku@wachuohp.or.jp



和歌浦中央病院

検索



和歌山バスで

JR和歌山駅発

●医大病院行き(雄松町三丁目経由)乗車
→和歌浦中央病院前下車：徒歩1分

南海和歌山市駅発

●医大病院行き または 和歌浦口行き
(ブラクリ丁・屋形町/本町二丁目・JR和歌山駅経由)乗車
→和歌浦中央病院前下車：徒歩1分

●海南駅前行き または マリーナシティ・海南駅前行き(城北橋経由)乗車
→津屋下車：徒歩10分



タクシーで

JR和歌山駅・南海和歌山市駅から約15分

グループ施設

介護老人保健施設
和歌川苑

Tel 073-446-2400
Fax 073-446-5100
住所 〒641-0055
和歌山市和歌川町5-44



訪問看護ステーション
コスモス

Tel 073-448-2125
Fax 073-441-3105
住所 〒641-0054
和歌山市塩屋6-2-70



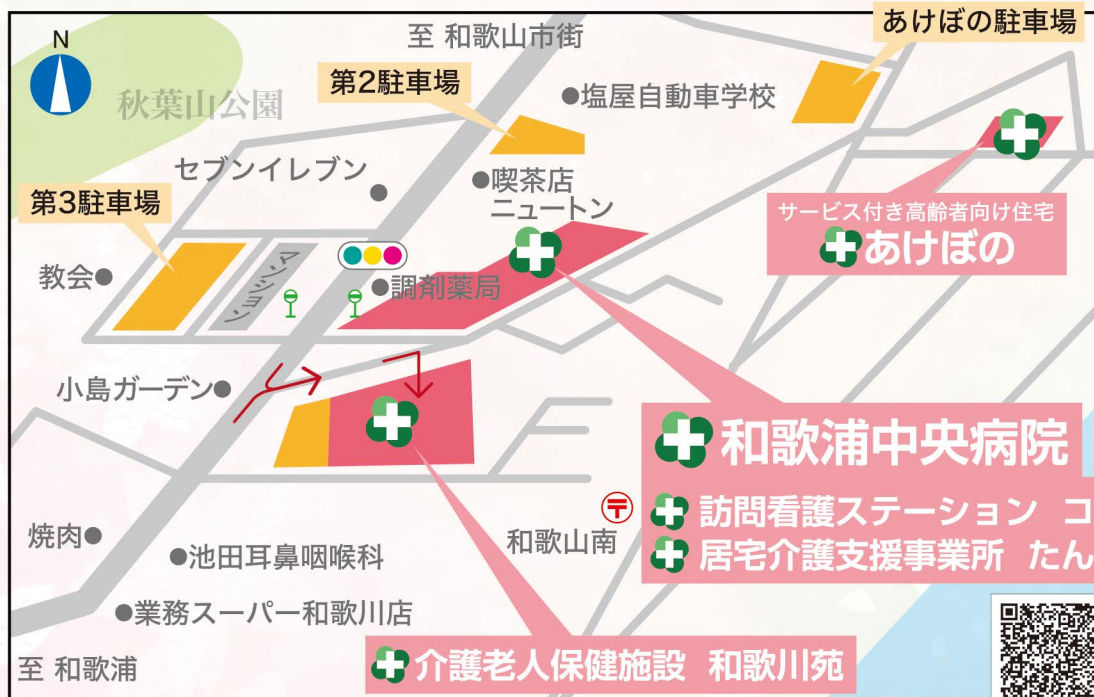
指定居宅介護支援事業所
たんぽぽ

Tel 073-448-6022
Fax 073-448-5258
住所 〒641-0054
和歌山市塩屋6-2-70



サービス付き高齢者向け住宅
あけぼの

Tel 073-444-2800
Fax 073-444-3015
住所 〒641-0055
和歌山市和歌川町3-1



GoogleマップQR▶



理念 基本方針

地域の皆様から「親しまれ、信頼され、選んでいただける法人」を目指します。

- ・私たちは、患者さま利用者さまの立場に立ち、良質で安全な医療・介護・福祉の提供に努めます。
- ・私たちは、患者さま利用者さまの権利を尊重し、満足と納得いただける医療・介護・福祉の向上に貢献します。
- ・私たちは、地域の医療機関・介護福祉施設と連携し、地域住民皆さまの健康・福祉の向上に貢献いたします。
- ・私たちは、医療人・介護人・福祉人としての責任と自覚をもち、常に研鑽に励み、資質の向上に努めます。
- ・私たちは、和の心を大切にし、一致協力して、安定した経営基盤を持つ、働きがいと誇りのもてる法人をめざします。

■ 編集発行 曙会広報委員会 お問い合わせ先 073-444-1600